

TC133 ソウル総会

期日 2012年9月17日-21日

会場 ソウル中央郵便局

事務局 中国 (SAC) 南ア (SABS)

P メンバー 20ヶ国

(オーストリア、中国、デンマーク、フィンランド、仏、独、イラン、伊、日本、韓国、オランダ、ケニア、ポーランド、ポルトガル、ロシア、南ア、スペイン、スイス、英国)

O メンバー 28ヶ国 (オーストラリア、ブルガリア、チリ、コロンビア、キューバ、チェコ、エクアドル、エジプト、ギリシャ、香港、ハンガリー、インド、インドネシア、ジャマイカ、モーリシャス、モンゴル、フィリピン、ルーマニア、セルビア、スロバキア、スロベニア、スリランカ、タイ、トリニダードトパゴ、チュニジア、トルコ、ベトナム、ジンバブエ)

参加者

南ア 3人

韓国 11人 (WG別合計)

中国 7人 (前回参加した議長の王敏氏は欠席。中国服装協会副会長の馮徳虎氏が参加)

日本 2人

フランス 2人

イタリア 1人

ケニア 1人

コンビーナ

WG1 XuJian (中国)

WG2 Chng-Kyu Park (韓国)

WG3 Lauren Houillon (仏)

・フランスのローレンとケニアのエフライムはTC38のメンバーでもあり、会の進行に関して経験がある。中国、韓国、日本は経験が浅いため会議の進行について戸惑うことが多い。国際標準化セミナーの中級コースを理解しておく必要がある。サンジェゴで行われたISO上部委員会ではTCに対して会議進行の専門家を派遣することも提案されている。前回南アの会議ではスイスの本部から1名参加していた。

- ・あらかじめ ISO の Web サイトに提案や意見を載せるのが良いようだ。日本の提案や意見のまとめを早く進めなければならない。
- ・今回の会議は WG 毎の討議となっていて、出席者をその都度確認した。
- ・メンバーは事務局に対して TC または WG メンバーとしてあらかじめ登録しておく必要がある。

主な論議

1. WG1 (中国提案：衣服のためのサイジングシステムと規格—身体計測)

- ・フランスから各項目に関する意見書が提出された。これは CEN の規格などが背景にある。

また各国からあらかじめ文書で提出されている各項目に関する意見も検討した。

- ・ケニヤはオランダの提案は重要だとの意見。

このため、これらの意見を含めて中国が新たなワーキングドラフトを作成しメンバーに開示する。(12月まで)

- ・名称は IS03635 と IS08559 をまとめて 8559 の part1, 2 とする。

- ・日本はあらかじめ用意していた提案書を中国及び南アの事務局に提出。

・中国はここまで作るのに、かなり多くの作業を進めていたようで、新たに作り直すにはハードルが高いようであった、このため、日本側の提案書はおおいに歓迎された。

- ・日本の提案を含めて中国側が再提出する。

ナチュラルウェストに関して韓国は懐疑的であり、臍の位置を参考にした計測方法を考えている。

2. WG2 (韓国提案：デジタルフィッティング)

- ・これまでに提出された文書 (WD : N031, 32) では ISO の標準規格 (IS) とならないとの意見で、技術文書 (TR) として作る方向にするかどうかの検討を行った。

また、「この規格は生産者向けか消費者向けか」の質問があったが、韓国は「消費者向け」との回答。

・他の文書も表題は人体を部分に分けた規格提案となっていたため、これらは言葉の定義と認識され、新規提案 (NWIP) として区分する必要が無いとの意見であった。通常 IS にはソフト規格などがあり、要求事項 (Shall) が入っているとの指摘も。

- ・韓国は多くのフィッティングに関するソフトのコンポーネントベースを規格

化したいとの意向。韓国は更に 11 文書を準備しており、全体像は南アの会議でプレゼンし、6つの NWIP を提案したとの意見。再度プレゼンを行い、資料を配付した。しかし、ここでプレゼンするより文書を提出すべきだとの意見で最終的に全ての文書を提出することになった。

- ・これらの提案は 1 つの標準 (IS) の中に区分され (Part 1, 2, …) て作成することとなった。

- ・韓国は国から NWIP の提出数を目標とされているようである。

また、提案を身体各部に分けた理由としてスキャニングの違いから同一規格にまとめることは困難と判断している。また、利用する業界も異なるとの意見。

全文書の提出が遅れたのは内容の完成度が低かったからとの非公式説明。

これらの文書は Web サイトに 10 月中に ISO の標準テンプレートに従った様式で掲載される。

- ・中国側はこの WG2 に関して消極的。それは IT を利用した市場がまだ発展していないことが背景にある。主な販売は一般小売店から百貨店になりつつあるのが現状。ネット販売は中国全土としてはニュースにはなるが、始まったばかりというのが実態のようだ。

人体スキャナーは小型を含め 4 台購入し、研究を進めている。

- ・南アやケニアの IT 環境は更に低く、論議に入れませんが、オフラインストア (リアルショップ) をベースに検討。韓国は一般の店でもマジックミラーを使うことで IT の利用が進むとしている。

- ・フランスは自国でも 3D 計測からのパターン作成などの研究を進めており、韓国側に対抗したようなプレゼンを行った。

- ・WG2 に関しては実質、韓国、フランス (EC) 日本の論議となるようだ。

- ・韓国は昨年 i-fashion という実験店舗を新世界百貨店に出店しており、その設備を会場に持ってきて、デモンストレーションを行った。今年も政府予算は獲得しているため、継続して研究を行う。

- ・韓国の WG2 提案は i-fashion の研究成果をベースとしていて、いくつかの目的を持っているが、一つはデザイン選定から縫製までの MTM (イージーオーダー) の実現。もう一つがバーチャルなフィッティング確認によるサイズのあった商品の購入。

これまでに軍服、手袋が実用化されている。手袋は従来、中国生産であったが現在は韓国国内生産となっている。納期 2 週間。

ファッション商品に関しては未知数。

- ・韓国はリエゾンとして i-fashion Biz Center を登録するとの意向。

日本も産総研などをリエゾンとして登録する必要があると思われる。

3. WG3 (フランス提案：基本身体計測部位 ディメンジョン)

・フランスはSd(セカンダリーディメンジョン)に関する自由度は高いとの認識。
本来ISOは法律ではないと。

・韓国はアイテムを新たに大枠でまとめ、業者が使いやすいようにしたい、としている。

・従来のフィッティングによる区分から“フォーマル”と“カジュアル”の区分を提案。

ディメンジョンもSdは選択の自由を持つように考えている。

アパレルメーカーとの公開論議など、必要に応じて開催している。

韓国の新しいアイテムとディメンジョンの資料も出来たばかりのようだ。

・ケニア、フランスなどからは日本と韓国の規格は似ており、共同して提案してはどうかとの意見あり。

・韓国はインターバル(ピッチ)に関しては欧米、アフリカとアジアは違いが大きいので、「アジア基準」を作ってはどうかと非公式に打診されている。

・中国はサイズ表示が身長・チェスト(バスト)・体型で統一されているためか、ディメンジョンに関する論議に入らなかった。サイズコード(呼び名)の議論となった場合にかみ合わない可能性が高い。

・Web上に各国からの意見が載っており、これらも検討すべき。

・アイテムに関して、乳幼児、子供、少年少女、成人の区分に関して議論があった。乳児は0~12ヶ月、幼児は12~20、24、36ヶ月など。

・南アは年齢(月齢)で区分。計測は18~25歳くらいが多い。

ヒップはミドルヒップなど4項目を計測している。(アフリカの特徴)

オーストラリアと情報交換をしている。

・安全性からの区分も必要との意見もあった。

・アイテムの設定及び内容の規定(服種の範囲)、フィッティングの必要性またはニットと布帛の区分、フォーマルとカジュアルの区分などに関して改めて提案を求められている。

来年3月までにCD(Committee Draft:委員会原案)を作りたい。

日本も楽天やZOZOTOWNなどの意見を聞く必要があるのではないかと

4. WG4 (南ア提案：製品計測およびパンティーホース規格)

・南アの説明は工場における計測方法の統一であった。

・韓国は日本と同様に通販など無店舗販売での規格としてとらえているが、業界の意見がまとまらないとなげいていた。

5. ビジネスプラン

・これまでのビジネスプランは南アの事務局で検討したものだが、事務局によれば「衣服生産の多くは東アジアにあり、消費も大きい。このためアジアの意見をビジネスプランに反映させる必要がある」との意見で、南ア事務局から日中韓の意見を提出することを求められた。

・TC133 の今後の活動の方向性として重要であり、日本としての意見を早急にまとめる必要がある。

現状のビジネスプラン（概要） 活動休止後 20 年の変化を考慮

①ISO/TC133 の対象

世界で利用されるアパレル製品

衣服生産、デザイナー、販売、研究者、一般消費者

②ビジネス環境の変化

世界のアパレル生産は年々拡大している。

生産地域は極東と東南アジアに集中している。

全てのタイプの衣服が生産されているが特別なタイプも存在する
機械化された技術が使われている。

通信販売やネット販売が増加しているが、返品が問題となっている。

③TC133 の期待される効果

サイズ表示の標準化と異なったサイズシステムでの変換ガイド

世界のデータセンターを目指す。

6. 人体計測データ利用のための日本からの規格提案非公式打診

韓国に話をした。

「スキャナーによる計測ポイントと手計測との誤差の検証は日本と韓国とで異なった方法で行っている。データの互換性を確保することは困難だと思う」と乗り気ではなかった。

改めて、メールなどで打診してはどうか。

7. TC133 会議名称の変更

・韓国や南アからの NWIP 提案を受け、TC133 の名称変更が検討された。

CLOTHING SIZING SYSTEM-SIZE DESIGNATION, SIZE MEASUREMENT METHOD AND DIGITAL FITTING

8. 決議（意識）

20

ISO TC133 名称変更 “衣服のサイズシステムズ - サイズ規定、サイズ測定方法及びデジタルフィッティング”。

21

ISO TC13 を ISO TC38 に連絡する担当として ローラン氏（仏）を指名。

22

CEN TC248 と連携し、ISO の TC133 のリエゾンオフィサー（主に、CEN TC248 WG10 の活動を報告）としてローラン氏（仏）を指名。

23

ISO TC133 を ISO TC137 に連絡する担当として Lisbeth Boloka 氏（南ア）を指名。

24

ISO TC133 を ISO TC159 に連絡する担当としてユン・ヨンジャナム氏（韓）を指名。

25

ISO TC133 をラ・メイユ連盟（旧 SIIM）に連絡するためにマルティエヌ氏（仏）を要請。

26

韓国は “i-fashion Biz Center” をリエゾンとして登録。CIB（委員会内部投票）を行う。

27

WG3 における Pd と Sd に関連した ISO3636、ISO3637 と ISO3638 を確認する。WI（ウィーン協定）に基づく。

28

WG3 のコンビーナとしてローラン氏（仏）を指名。

9. 次回総会

2013 年 5 月 27 日～31 日 パリで開催